

8月6日、平和記念公園で 何が起きたのか？

2026年全学連排除事件の深層と、 入場規制の真実

81回目の原爆の日。平和を祈るべき慰霊の場は、なぜ警察が出動し、活動家が強制排除される事態になったのか。表面的な「排除」のニュースの裏に隠された、過激派の実態と過去の暴行事件という因果関係を解き明かす調査報告書。

2026年8月6日、沈黙が破られた朝

午前0時頃：全学連（矢嶋派）を中心とする約40名が原爆ドーム前に座り込みを開始。

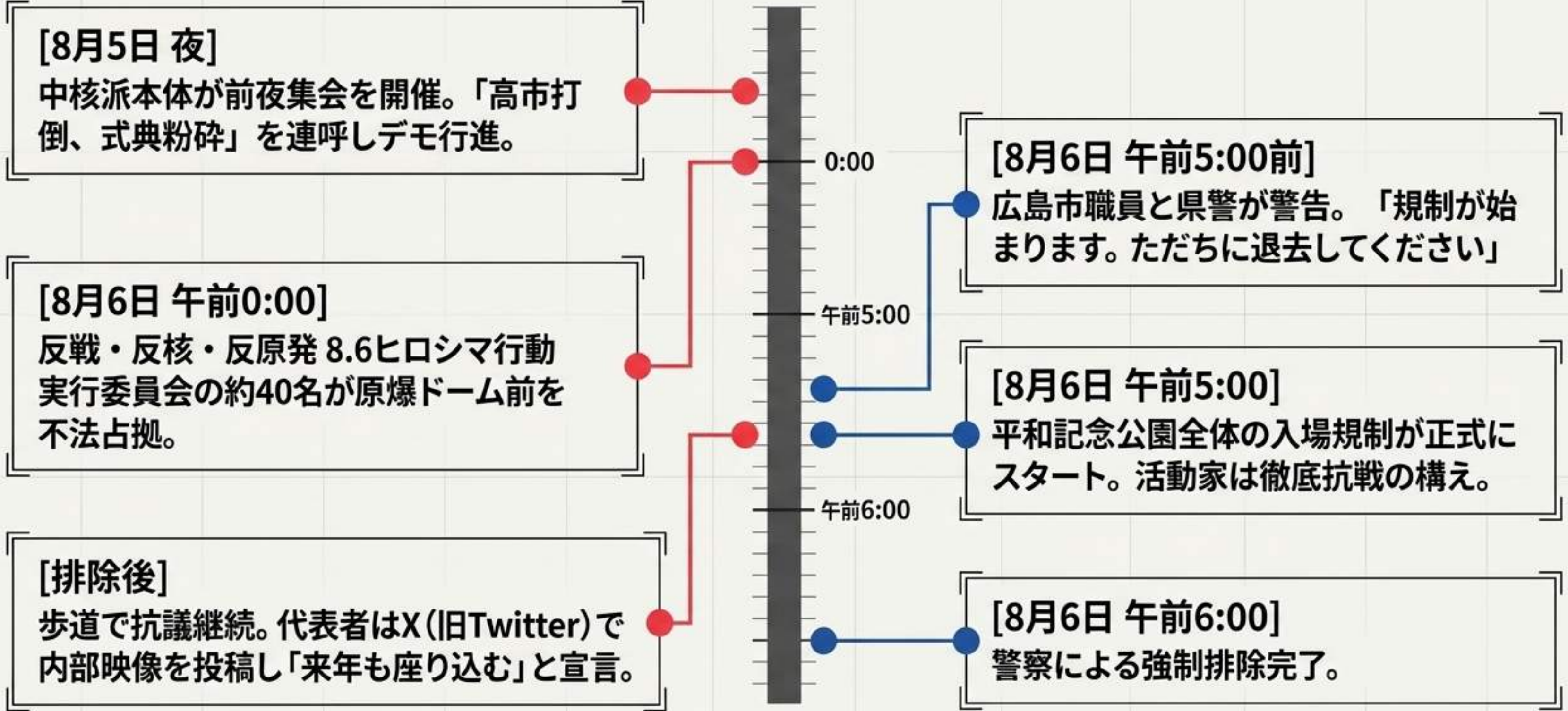
「市当局は恥を知れ！」
「われわれは座り込んで闘うぞ！」
と拳を上げ、市の退去命令を拒否。



午前6時頃まで：広島県警機動隊が「威力業務妨害」として全員を園外へ強制排除。
(女性活動家には女性警官が対応)

81回目の原爆の日。平和記念公園は早朝から物々しい空気に包まれた。
彼らはなぜ居座り、なぜ排除されたのか？

排除に至る6時間のタイムライン記録



比較：交わることのない「慰霊」と「闘争」

	広島市・一般市民（本来の姿）	全学連・活動家（彼らの姿）
目的	原爆死没者の慰霊と世界恒久平和の祈念	特定の政権打倒・国家権力への実力行使
手段	静かな祈り、黙祷	大音量の拡声器、不法な座り込み、威力業務妨害
対象者	遺族、死没者、平和を願うすべての市民	警察、特定の政治家、国家権力
スローガン	平和への誓い	「高市打倒」「中国連帯」

EVIDENCE FILE JP-2626-0806-CM



平和記念公園は「政治闘争の場」ではない。広島市の公式サイトにも、その趣旨は明確に定められていることがあること。

スローガンの解剖：彼らは何を叫んでいたのか？

「高市を倒すぞー！」

[解析タグ]
反核ではなく、明確な特定の保守系政治家・政権への攻撃。

「中国への侵略戦争を
阻止するぞー！」

[解析タグ]
日本の防衛努力を「侵略戦争」と独自の極端なイデオロギーで変換。

「中国人民と連帯して戦おう！」

[解析タグ]
被爆地の慰霊祭において、特定の外国（中国）との連帯と闘争をアピール。

全学連公式の「2026年8・6ヒロシマアピール」では、今回の排除すら「国家権力が戦争への道を掃き清める行為」と定義づけている。彼らにとって8月6日は、純粋な追悼ではなく「政治アジェンダを叫ぶための舞台」に過ぎない。

主導者の正体と背後の過激派組織



名前: 矢嶋 尋 (Hiro Yajima)

年齢/所属: 27歳 (1999年生まれ) / 学習院大学文学部

経歴: 元・中核派全学連初の女性委員長。夫の除名問題を機に中核派を離脱。Wikipediaにも「日本の極左活動家」として記録。

発言録:

「内乱罪で死刑になるくらいの想定はしている」(6月の記者会見にて) ⚠

現代革命労働者党

→ 設立: 2026年5月 (矢嶋氏が代表)

→ 機関紙: 『碇星』

→ 構造: 中核派から分裂した「矢嶋派全学連」を基盤とする。京都大学の矢嶋派書記次長など、若い学生を巻き込み実力闘争を公言。

→ 戦術: ヘルメットを被らない「ソフト路線」を装いつつ、中身はハードコアな極左思想。⚠

警告: 当該組織および人物は、公安警察の監視対象である。情報の取り扱いに注意せよ。⚠

規制強化の真実：「弾圧」ではなく「必然」

Step 3 (The Consequence - 2026):
ルール違反に対する正当な排除

再三の退去命令と規制ルールを無視し、不法占拠を続けたため「威力業務妨害」として排除。

Step 1 (The Cause - 2023):
中核派活動家による暴力事件

活動家が職務中の広島市職員に集団で暴行。結果、5名が有罪判決を受ける。

Step 2 (The Countermeasure - 2024~):
安全確保のためのルール変更

暴行事件を重く見た広島市が、式典当日の午前5時以降、平和記念公園全休の入場規制を開始。

「表現の自由の抑圧」
ではない。
過去に彼ら自身が
引き起こした「暴力」が、
今日の厳しい入場規制を
正当化させたのである。

守られるべき「静かに祈る権利」



【活動家の主張】

「被爆2世・3世の仲間たちごと排除した。
これは国家による弾圧だ」



【現実】

例年、拡声器を使った大音量のデモや
座り込みが、遺族や一般市民の静かな
祈りを妨害し続けてきた。

【SNS・市民の声】

• 「やっと静か
になった」

• 「鎮魂の日を
守るための
当然の措置だ」

遺族が手^{*}を合わせたい場所で、大音量の政治コールを行う。
その「場を弁えない行為」自体が、被爆者の思いから最も乖離している。

終わらない執着と、これからの8月6日

「国家権力が戦争への道を
掃き清めることを絶対に許さない。
来年も諦めずに何度でも座り込む」

戦後80年近く続く左翼急進主義の執着は健在である。
彼らが来年もルールを無視して座り込むのであれば、広島市と県警は、
市民の安全と慰霊の平穏を守るため、さらに厳格な対応を迫られる。

EVIDENCE FILE JP-2026-0806-CR
DATE FILED: 2026.08.07

あなたは8月6日、原爆ドームの前で静かに祈りたいけれども、**拡声器の怒声**を聞きたいですか？
大声で叫んでも、平和は来ない。祈りの場を守るための戦いは、まだ終わっていない